



昨年末から今春にかけ気になる話の中で、とりわけ注目すべき問題として、地球規模での環境破壊が急激に進んでいることが、もはや一部の力によって隠しきれぬ範囲を大きく超えたという報道の事実がある。なかでもアメリカ国防総省（ペンタゴン）の発表は世界を震撼させるに余りある情報として世界を駆け巡った。

オゾン層の破壊、二酸化炭素の増加による温暖化、熱帯雨林の伐採や焼き畑農業そして化学肥料の多用・農薬等障害による砂漠化、

大気・海洋の汚染、人口増加による世界的食糧危機の可能性、正体不明の病原菌の発生等々由々しき状態に立ち入ったのである。われわれの周辺においても、年々各地で発生する異常気象や環境異変の現象が如実にそれを表している。

そんな中で百年先を見据え、ふる里環境創造ビジョンとして立ち上がった「新潟緑の百年運動……県民木を植える運動」はまさしく時を得た呼びかけであった。

里山に限らず街の中でも田園地帯でも事の重大さを理解するならば積極的に緑化を進めるべきと考える所以であります。われわれ社団法人は中越圏域唯一の公益法人としてそのための任にあたる重責を負っていることは言を待ちませぬ。

市民と力を合わせ、大きなうねりとする日は近いと考えます。今年も協会は市民の要望あるところどこへでも出かけ、一緒に汗を流そうではありませんか。かけがえないふる里の明るい未来につなげるために。

樹木は火災にあうと根から水を吸い上げて水蒸気を出し、懸命に自らを守ろうとする。

関東大震災（一九二三年）において横浜公園（現横浜球場のあるところ）には数万人の避難が押し

かけ、そこに大火災が迫ったが公園四周の樹木が人々の命を救った。一九七六年の山形県の酒田市の大火では、焼失した中心市街地に沿った寺町のうっそうとした樹木が、吹きつける火の粉と熱風をやりわらげ、その向こうの市街地を守った。阪神・淡路大震災では一本の樹木が倒れかかった住宅を支えたし、小公園でも数本の樹木が人々を輻射熱から守った。樹木の持つ生命力は人間の命と住まいを守るものであることが、もともと認識される必要がある。が、それと同時に樹木が物理的にも精神的にも死角を生み出すと



いう防犯面の重大な問題にも留意が必要である。全国を震撼させた一九九七年の神戸の児童殺傷事件では、放置され人々の足が遠のいた山やよかれと信じて疑わなかった町の低木植栽が、青少年たちの密会の場や暴行の場となり、我が国でもようやく緑と犯罪の関係が注目されるようになった。



長岡市金房の街路樹



緑の「ゼロエミッション」への挑戦

長岡緑地環境協同組合では、設立以来、街路樹や公園などの管理作業によって発生した樹木の枝や草・芝などを、

緑地に再び還す「リサイクル」の実現に向けて努力してきました。チップ加工し緑地に還元することでリサイクルの輪を確立しました。これまでの取り組みを簡単に紹介します。

平成14年より長岡市内の公園や緑道にて枝葉のチップのマルチ効果について試験施工しております。樹木の根元や緑地帯にチップを敷くことで、雑草の侵入を防ぎ、地温の上昇を抑えるのが主な目的です。その結果、一年草の発生は極端に減り、防草効果の高さが証明されました。また地温も他に比べ、2～6℃も抑える事ができました。これは乾燥期に輻射熱を軽減し水分の蒸発を防ぐのでとても有効です。また、敷き込まれたチップは微生物などによる分解、醗酵が進み、植物の栄養素として取り込まれば草木の健全な育成に効果があると思われま。他にも人による踏圧の軽減や、美観の向上など、さまざまな効果が期待できます。

また、長岡市水道局（妙見浄水場）から、浄水の際発生する沈殿土に、枝葉のチップから作った堆肥と混合して、花苗の栽培試験をおこないました。結果は、保水性、排水など物理的機能を十分に満たしており、花持ちも優れていました。特筆すべきは、肥料分の保持力です。定植以降、6ヶ月の間、一度の追肥をせずに花を咲かせ続けました。この培養土はすべて廃棄物から生まれ、しかも長岡地域の資源を再利用していることを考えれば、培養土の性能以上の価値があり、資源循環型社会の形成に大きく貢献できると確信します。（佐藤）



【環境に関する用語集】

***ゼロエミッション**
ゼロ（無し）エミッション（ごみ、廃棄物）。1994年に国連大学により提唱された構想。ゼロエミッションは、排出される廃棄物をリサイクルし、社会全体で廃棄物をゼロにしようという考え方。

私たちの「緑のゼロエミッション」は日頃の管理作業で発生する剪定枝などの廃棄物をリサイクルし、資源循環型社会の形成を目指した取り組みです。

***バイオマス**
バイオ（生物、生物資源）マス（量）からなる言葉。生物由来の資源のことで、食品廃棄物（生ゴミ、おからなど）、木材、下水汚泥、稲わら、枝葉、牛糞、もみ殻など、多岐にわたる。

***資源循環型社会**
環境に優しい社会を目指して、資源をできるだけ消費しない、不要物を出さない、処理処分しなくてはならない廃棄物は再利用する社会のこと。また、再生された物品やエネルギーを積極的に導入することで、資源「循環型」社会が形成されます。

